

彩の合気

編集発行
埼玉県合気道連盟

埼玉県合気道連盟機関誌NO. 16

■第21回・連盟合同講習会

21団体181名熱気溢れる稽古

去る7月6日(日)、狭山市市民総合体育館に道主植芝守央先生をお招きし、第21回合同講習会を開催しました。今年は、連盟の呼びかけに日高市合気道会・秩父進修館・坂戸合気会の3団体も初参加し活気に満ちたものとなりました。

講習会は、合気道自然館館長・吾妻正義師範の「7年振りの当地の講習会ですが、参加人数も増加し協力体制も強まり、こうした中で開催できることは光栄です。道主の一挙手一投足を見逃すことなく、最後まで頑張りましょう」との開会の辞に始まり、連盟を代表して市塚副会長より、「実りある講習会になることを期待します」との挨拶の後、早速、道主の実技指導が開始されました。

冒頭道主は「初めてハワイとフランスに指導員が送られたのが昭和27年、今では世界各地で合気道が盛んとなっています。日本でも、都市部を中心に益々普及しております。全日本の演武会も出場者が今年は6千7百人に達しましたが、人とのつながりが発展をもたらすと思います」と、合気道普及の現況と今後への期待を簡単に述べられました。

道主は準備運動に続いて、正面打ち入り身投げ、両手・片手取り入り身投げ、横面打ち入り身投げについて、説明演武されました。何れの技にも共通する捌きや呼吸力を生かすことの重要性が強調されました。「今年は、例年より涼しいですね」と、何やらその後の展開を仄めかすような言葉に場内は爆笑。次に講習は正面打ち一教、諸手・片手取り一教、座技片取り二教に進まれ、(この辺りから、気温上昇しはじめる)

更に横面打ち四方投げ、両手取り四方投げで、入り身と転換の捌きを再度強調されました。「疲れましたか、でもヤメマセン」の激励の後、諸手取り呼吸法、後両手取り三教、天

地投げと続き、最後は座技呼吸法で締めくくられました。この間、見事な受けを取られたのは桜井・鈴木指導員でした。講習中、道主は絶えず稽古者の間を巡回され、自ら手を取り指導されておりました。思わぬ道主の手ほどこきに、手にピースをつくり満面笑みを浮かべる女性の姿。「いつもより、今年は時間が長いですね」と汗をしたたらせ、頑張る年配の男性。終始、和やかでしかも緊張感のある1時間45分に(確かに15分例年より長かった)亘る講習会でした。

尚、最後に来年度の主管道場である合気道大宮道場より、「来年も益々大勢の方の参加をお待ちしております」と閉会の辞が述べられました。

その後、場所を移して開催された直会にも70名の方が参加。川路理事長の「主管道場の見事な心配りに感謝申し上げます。今年も道主の指導のもと稽古し交流が深められたことを喜び合いたいと思います」との挨拶があり、道主からは「最近では運営がスムーズにもなり結構なことだと思います」とのお褒めの言葉を頂き、入間幸武館館長・中島正吉氏の乾杯で、和やかな懇親会が始まりました。初参加の団体からは、「来てよかった」との感想も述べられ、各支部・道場の近況報告もなされて、瞬く間に2時間が過ぎました。



「道主の指導に見入る参加者」

新シリーズ (2)

「我が支部・道場の師範はこんな人」

浦和合気会

会長 林 昭男

「我が道場の師範を語る」

遠藤師範が浦和合気会の指導にお見えになったのが今から21年前(1982年)の秋でした。その頃はまだ本部道場の若手師範として、バリバリ指導に打ち込まれていた時でした。丁度その頃「剛から柔」に変わられつつあった時だと思います。以前はよく怪我が多く当時の本部道場長であった大沢師範が「君は怪我が多いね。少し力を抜いたらどうだね？」の一言で、気は抜かず力を抜くことに重点をおいた稽古をするように心がけ、又大きな外国人に後ろ取りの中で技を掛けるつもりではなく相手が飛んだことがあり、まさに「鞭」の柔らかさ、しなり、強さを実感されるなどが重なり益々稽古の方法、姿勢を変えていかれたと聞いております。非常に好奇心、研究心があり何か気になる所、疑問点あるいは新しいヒントを見つけると実行に移してみる。

読書の量も多くそれが合気道にも人格的にも生かされていると思っています。我々は、幾つになっても挑戦できるし気力も維持できる。それはいつも新しいものに対し挑戦する姿勢をなくさないことであり、年を取ると言う事はその挑戦するという気持ちが萎えることである。心の若さを持ち続けることが大切であると思っています。稽古で「感じてください」とよく言われます。感じる事が出来れば感じさせる事も出来る。このように感性を豊かにしていくことの大切さも教わっております。一つのことを教わり少しでも近づきたいと思って稽古をし、近づいたなと思っても次にお見えになると、また進化している。距離は縮まるどころか広がっていく現実を実感しています。今、月に1~2度の来訪ですが稽古の厳しさと相反し、稽古後のお話の中に親しみと暖かさと人間味が滲み出ています。師としての大きさを感じる次第です。合気道の技も元氣も与えて下さる。昔から「縁がある」と言われていますが、まさに出会いの偶然と必然が浦和合気会と師範を結びつけたのだと思っています。



蕨合気道会

山田 重郎

「西尾昭二師範を語る」

「いつもニコニコと笑顔を絶やさない」というのが、初めて会った時の印象でした。昭和58年の当会発足以来、20年間にわたりご指導をいただいております。

西尾師範は、初心者に対しても丁寧に指導してくださるほか、「技は1回出したら終わりだ。だから技は忘れても良い。それよりも師の言った言葉をよく覚えておけ」という開祖の言葉をよく引用され、「開祖が作り上げた合気道の本質を追求しなければならない」とおっしゃっています。また、我々に対して「皆さんのことを自分の弟子だと思ったことはありません。皆さんは全員が開祖の弟子ですから、私は少し上の先輩として指導しているだけなんです」とも。現在の稽古仲間が開祖を存じあげているのは初代会長の壺内久充六段だけですから、西尾先生からお聞きする開祖の昔話や、開祖の合気道を知ることができる稽古の内容は、我々にとって実に貴重だと思えます。

稽古は、開祖が言われた言葉の実現を主眼に置いた内容となっています。体術の動作に剣や杖の手引きを採り入れることで、合気道が本来持つ「剣の理合」を勉強できるほか、体術から剣対剣、剣対杖の型に発展させており、「剣を持てば剣、杖を持てば杖、あらゆる『武』の再現が可能である」という開祖の言葉を具現化しています。さらに、触れ合い一瞬の入身や、当見による作り・崩しなどを探求し、他武道にも十分通用する内容を持っています。西尾師範は、「一瞬で相手を倒せる内容を持ちながらも、お互いが共存する道を模索していくのが合気道だ」とおっしゃっています。

西尾師範の稽古はととても難しい内容を含んでいますが、厳しい中にも楽しく稽古できる環境を作ってくださいしています。



「西尾師範——左から3人目」

道場便り

合気道健武館

須野原 寿枝

第19回「合宿報告」

今年の夏は冷夏と騒がれていましたが、幸いにも天候に恵まれ、健武館 20名の合宿はスタートしました。今回の合宿は大人の人がない為に大学の合宿もそこに呼び出されマネージャー兼看護、監督補佐の重大任務を言い渡されてしまいました。

当道場の合宿は「単に技の向上のみを目的にするのではなく、協調性、忍耐力、指導力などの向上を含む修養、修練の場としての合宿」を主旨として禁煙、禁酒の為に大人の参加が激減しました。ここ数年は子供達を中心に稽古、学習、生活面の指導を行っています。



「箸とらば・・・」で始まる食事。休憩時間は自主的な学習。消灯前には今日1日の感想文の提出です。

稽古は転換を基礎とした基本技、高校生は剣と杖を時間外に行いました。中日は「味噌なめたか」で知られる関興寺で座禅を体験しました。「心を整える」ことが禅であり、調身、調息、そして調心が基本になると教えて頂きました。普段の稽古で先生が指導される事に似ていると考えていたら、お坊さんが座禅は武道はもちろん茶道や華道など「道」に深い関わりがあると教えて頂き、心を落ち着かせ、集中力を高める事も学びました。

学習面では先生の作成された問題（小学生は国語と算数を、中学生は英・国・数）を高校生の2名と共に添削、指導させていただきました。「教える事は学ぶ事でもある」という先生の言葉が思い浮かび、稽古も勉強も同じことだと実感しました。

澄み渡る空気と素敵な湯沢町で2泊3日7食付き、道場使用料、交通費とを含めて1万6千円（小学生）と格安でした。皆さんもいかがですか？

上尾合気会

戸辺 一成

「道場紹介」

上尾合気会は昭和64年に設立され、上尾市で活動しています。本誌の「師範を語る」に載っている蕨合気道会とは姉妹道場で、西尾昭二師範を特別講師に迎え、現在は上尾市民体育館と今年8月に落成したばかりの新しい埼玉県立武道館を拠点に、大人と小中学生を合わせて約20名の会員が稽古に励んでいます。

中にはお孫さんと一緒に稽古をされている会員もあり、生涯合気道を目指す皆の良いお手本になっています。

特色として、「合気道は、剣の動きを体で表現する」ということを踏まえて、稽古は先ず「合気道刀法居合」の練習から始まります。この刀法居合は、西尾師範が「合気道における剣の理合いを学ぶ方法」として、自ら学んできたあらゆる流派の居合道・剣術の中から創作した居合で、実際に居合刀や真剣を使つての稽古が行われています。

その後、徒手、続いて剣・杖を取り入れた稽古に入っていきます。特に「相手の攻撃が当たらない入身の角度と間合い」を常に確認しながら技を行うとともに「徒手の動きをそのまま剣・杖につなげていくことを念頭に置く稽古」が強調されています。

西尾師範門下で開催されている日曜講習会（毎月）や全国講習会（年1回）にも積極的に参加し、蕨合気道会の他にも、県外の道場とも親交を深めています。

上尾合気会では、他の道場で稽古されている方の訪問を歓迎しておりますので、お気軽にお越しください。合気道という「和」の武道で、合気道の「輪」を広げていきましょう。



名称：上尾合気会

稽古日：毎週土・日曜日

午前9時30分～11時30分

場所：上尾市民体育館または埼玉県立武道館
(施設の利用状況によって異なります)

第18回・連盟少年錬成会

198名参加し熱心に稽古

4月20日(日)、入間市武道館において、県連傘下12団体198名が参加して第18回少年錬成会が開催された。

まず、主催者を代表して、市塚勇連盟副会長の「みなさん、こんにちは」の呼びかけに300畳をほぼ埋め尽くした子供達の元気な声が館内に響き渡った。続いて主管道場・入間幸武館中島正吉館長より挨拶を頂いたあと、早速全体錬成開始。

入間幸武館道場・成田隆次指導員の指導のもと、舟こぎ運動・準備体操に続いて基本技の錬成に進んだ。座技一教、正面打ち入り身投げ、片手取り四方投げを成田指導員は丁寧に指導され、子供たちも機敏に行動した。最後は座技呼吸法で締めくくられたが、この間、各道場の責任者らも一緒に汗を流しているのが印象的でした。基本錬成後は、約1時間余に亘る団体錬成。待ち時間は、入退場も含めて5分。大所帯から小人数まで様々であったが、それぞれ各団体の特徴が発揮されました。

会の最後に、連盟・川路理事長より具体的な講評がなされました。まず、「大切な時間、今日ここで合気道をやったことは素晴らしいと思います。しかも、他の団体の演武をよく見ていたこと」について、合気道を通じて貴重なことを学んでいることが強調されました。さらに、特に「礼」がよくできた数団体や難しい技に挑んだ団体に対し、賛辞が贈られた。名前を挙げられた団体の子供達の誇らしげな顔が印象的でした。2時間余に及ぶ今年の錬成会は、無事終了、錬成証とご褒美のおやつを頬張る子供達の表情は明るく、浚刺としていた。来年に向け、更なら発展を祈念し、会場をあとにした。



「大きな声で正面に礼」

県連活動報告

1. 連盟・常任理事会(3/9:和光市「養老の滝」)

川路理事長・林副会長・松橋事務局長以下他常任理事を含めて8名が参加し、今年度定期総会向け議事の検討・理事会日程等、連盟運営の基本方針が審議された。

2. 理事会(4/20:入間市武道館会議室)

少年錬成会前、役員・各団体理事18名の参加を得て、第21回合同講習会の確認・打合せ及び今年度総会議事が審議され、常任理事会提案の全ての事項が全会一致で決定され、総会に諮ることが決定された。

3. 第21回定期総会(6/1:埼玉会館3F)

今年度総会は46名(出席32・委任状13)により開催された。会長代理として知事特別秘書・木下達則氏、川路昌治・理事長の挨拶に続いて、蓮田合気会(高松正勝)・草加合気道研究会(中道一也)上尾合気会(黒須信弥)各氏の新理事紹介・挨拶がなされ、議事へと移った。

I. 平成14年度事業・決算報告

松橋事務局長より事業報告、向笠理事より決算報告、三輪監事の監査報告があり、全ての事項が全会一致で承認された。

II. 平成15年度事業計画・予算案

松橋事務局長より事業計画が、向笠理事より予算案が提案された。また、この間検討摸索されてきた、「彩の合気」について、松橋事務局長より予算・発行方法について確立した旨の報告がなされ、適切な広報費の増額により、発行部数500部を維持し内容の一層の充実を図ることが確認された。理事会提案の全ての事項が承認された。

III. 平成15年度・第18回少年部錬成会報告

IV. 上尾合気会・連盟加入の承認について

4月1日申請。4月20日理事会で承認。本総会において満場一致で承認されました。

団体名：上尾合気会

代表者：黒須 信弥

連絡先：上尾市瓦葺 2004-15

TEL 048-721-2270